その人らしさを捉える

全国の生徒作品を見てみよう。

目標

身近な人のもつ雰囲気を、表情やしぐさなどから捉え、材料や用具を工夫して表す。

身近な人を見つめ、感じ取ったことをもとに主題を見つけ、その人らしさを表現する構想を練る。

自分の見方や感じ方を大切にして、身近な人を表したり、作品を鑑賞したりする活動に楽しく取り組む。

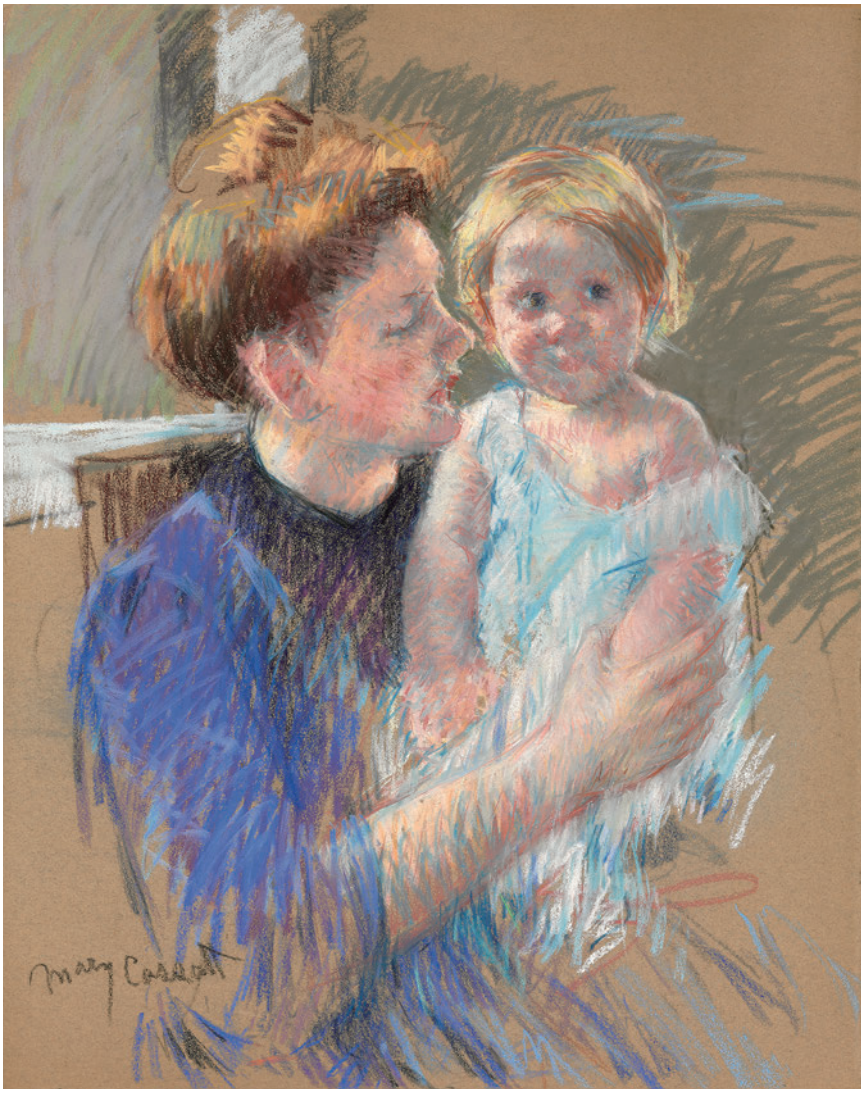
ふとした表情やしぐさには、その人らしさがにじみ出る。身近な人を観察し、絵や立体で表現してみよう。

道徳科とのつながり 相互理解、寛容

22-1

鑑賞

これらの人の表情やしぐさから、どのような印象を受けるだろう。



子を抱く紫色の服を着た母

紙、パステル　71.8 × 56.5cm　1914 年頃

メアリー・カサット［1844 ～ 1926 アメリカ］

カサットは「母子像の画家」とよばれ、親と子の生き生きとした姿を描いた。



撮影：上野則宏

ふざけっこ

ブロンズ　高さ 99cm

1964 年

宮城県美術館蔵

佐藤忠良（さとうちゅうりょう）

［1912 ～ 2011

宮城県出身］



ふざけっこのスケッチ

紙、鉛筆（えんぴつ）

24.5 × 35.1cm

1964 年頃

宮城県美術館蔵

佐藤忠良

佐藤は「デッサンは目と心の体操」と語り、彫刻（ちょうこく）をつくる際には、モデルを何度もスケッチした。

22-3



生徒作品

悩(なや)む友達

紙、コンテ、アクリル

51.5 × 36.4cm

POINT

友達が悩んでいる
様子を表現するために、
表情、ポーズ、
背景の描き方などに、
どんな工夫(くふう)を
しているだろう。

生徒作品

休み時間

粘土(ねんど)　高さ 16cm

作者の言葉

休み時間にくつろいでいるところを表しました。リラックスしている感じを出したかったので、足をくずしたポーズにしています。



23-1



生徒作品

吹奏楽部の先輩

紙、水彩

53.8 × 37.8cm

作者の言葉

吹奏楽部の練習で、チューバを演奏している先輩の姿が目に留まりました。楽器の輝きや映り込んでいる自分の姿も描いています。少しずつ色を塗り重ね、微妙な色合いを表現しました。

表現 発想・構想　その人らしさを捉えて、スケッチしよう。

資料

P.4〜7「鉛筆で描く」「水彩絵の具で描く」「アクリル絵の具で描く」P.16〜17「粘土でつくる」



●友達らしさを探る

うーん、
いつもの
優しい雰囲気が
出ていないなあ。

友達にさまざまな表情やポーズを取ってもらう。



あっ、
この感じ。
この表情と、
ポーズで
描いてみよう。



●何度も見て、形を捉える

全体の形をおおまかに捉えてから、細部を描き込む。